

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2874100502		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホームまほろばの里		
所在地	揖保郡太子町塚森125-1 (電話) 079-275-1858		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成21年6月9日	評価確定日	平成21年7月10日

【情報提供票より】(平成21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実費負担
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380 円	

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1	要介護2	4		
要介護3	3	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 87.1 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	二ノ丸内科・たつの市立御津病院・太子病院・福島歯科・つだ歯科
---------	--------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>太子の賑やかな町の近くで周りを田畑に囲まれた位置に、併設の建物の中にグループホームがある。1ユニットで1階にあり、外に出やすい環境にある。利用者の状態が低下していても明るい職員の対応で、利用者の表情が穏やかであった。管理栄養士・看護師と介護職員との連携で安心のサービスを提供している。近隣にも事業所の存在が浸透がしているので、グループホームから認知症に対する理解や介護の専門知識などの働きかけを期待したい。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>前回評価の改善課題について、職員ができる項目は改善に取り組んでいる。改善の意識はあるが、家族や周りの協力が必要な項目はまだ時間を要している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>前回の評価結果から、改善できていること、できていないことの反省を踏まえて、今回の自己評価については職員会議で意見を出し合い、取り組んだ。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2カ月に1回開催している。家族のメンバーは毎回交代で参加しており、その結果協力的になった家族もあり、事業所の励みになっている。利用者にとって運営推進会議は職員だけでなく、幅広く外部に意見を言える機会であり、お互いに意見交換することにより生活の安心につなげることができるため、利用者の参加への働きかけを行ってみたい。会議の傾向として報告が大半になってきているので、事業所から意見を求める提案など雰囲気作りに積極的な取り組みが望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>家族が訪問された時には、職員は家族とコミュニケーションを取りながら、意見や苦情を聞くようにしている。聞き取りした苦情は職員会議で対応できる内容は改善し、他は併設特別養護老人ホームの職員と外部の第三者委員による苦情処理委員会で検討され、その結果をサービスに反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>老人会の方がホームの畑の手伝いや草取りに協力してくれる関係にある。老人会、自治会、近隣の保育園、小学校から行事の招待があるときは積極的に参加しており、小学校では運動会のプログラムに利用者の参加の場面もある。併設の特別養護老人ホームと共同のイベントである夏まつりに毎年500人ほど参加され、地域と交流はできているが、地域の一員としての役割に今後取り組みたい希望があるので、その取り組みに期待したい。</p>

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念として「仲良く笑顔で歩こうよ」を掲げ、運営方針は「地域交流を大切にし、個々の生活を豊かにします」を謳い、地域との交流を創設時より意識している。		地域密着型サービスとしての理念に近づけるよう取り組んでいるが、その理念が地域住民にとってもより分かりやすい内容となるよう、一層の理念の探求を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、入職時や職員会議で理念の浸透に努めており、職員への聞き取りにおいても、利用者の自立支援を基にして、サービスの提供に地域との交流を意識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の方がホームの畑の手伝いや草引きを協力してくれる関係がある。老人会、自治会、近隣の保育園、小学校から行事の招待があれば積極的に参加し、小学校の運動会ではプログラムの中に出演の場もあり、ホームにとっての年中行事となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果について、職員会議で話し合いが持たれており、職員ができる改善については取り組んでいる。家族やまわりの理解・協力が必要なところは時間をまだ要するが、意識はしている。今回は職員会議で説明があり、その後全員で前回の改善も含め自己評価に取り組んだ。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月に1回運営推進会議を開催しており、参加された家族がより協力的になってきており、事業所は励みになっている。内容については報告が主になり、活発な意見の交換が少ないことを懸念している。</p>		<p>利用者にとって運営推進会議は職員だけでなく、幅広く外部に意見を言える機会であり、お互いに意見交換することにより生活の安心につなげることができるため、利用者の参加への働きかけを行ってみたい。活発な意見交換の場になっていないことに、事業所が物足りなさを感じているので、雰囲気作りや意見の提言などの積極的な取り組みを期待したい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町とはメールのやり取りをしており、インフルエンザの流行の時期は対応の情報や介護保険の改正等その都度情報を入手している。また、町からの措置の依頼を受け入れたり、成年後見人制度の導入の提言などをしたり、協力的な関係にある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回利用者の近況を記載したまほろばの里便りを送付している。金銭管理については、利用者が買い物をしたおり、レシートを家族に送付し、コピーしたものを台帳に貼り、管理している。職員の異動についても便りや電話で知らせており、家族調整記録に報告事項を詳しく記載している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族のホーム訪問時には、職員は家族とのコミュニケーションをとり、苦情や意見を聞くようにしている。出された意見は、併設の特別養護老人ホームの第三者委員と職員で構成している苦情処理委員会にかけ、サービスの質の向上に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2年程介護職員の異動はないが、看護師の退職で新たに併設の施設より看護師が異動している。また、職員は併設の特別養護老人ホームからの異動で、交流の機会があり顔馴染みの関係がある。ホームに異動の時は利用者に挨拶し、家族には電話や訪問時に挨拶し説明している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は全職員を対象に年3回開催し、参加できない職員には回覧で伝達している。外部研修は情報があれば掲示している。資格取得者には資格加算や、資格取得試験日は有給休暇の配慮がある。職員からも色々な研修に参加して質の向上を図りたいという前向きな姿勢が見られる。		職員は色々な研修に参加し、サービスの質について自信を持つために更に研鑽に励みたいという要望があり、事業所として職員育成のために法人内外の研修の受講機会を増やす等、計画的に取り組まれるよう期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市の社会福祉法人運営のグループホームとは交流しているが、同町のNPO法人運営のホームとは交流するまでには至っていない。しかし、職員は幅広く他のグループホームとの交流を望んでいる。		多様な主体の法人のホームとも交流に努め、地域での役割を担っていく取り組みが望まれる。また、職員も他のグループホームの見学について強い希望があり、そのことは、利用者のケアに還元されることになるため、今後の交流を期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の特別養護老人ホームやデイサービスセンターから入居される利用者は、同じ建物内であるので、気軽にホームを体験できる環境にある。在宅からの利用者には、申し込み時と契約時に家族と共にお茶でもてなし、雰囲気味わってもらいながら、説明や相談に応じている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事得意な利用者に教えられたり、収穫した野菜が調理され、漬物等になって昼食の食卓に加えられた時は、各テーブルで話題になり、共に収穫を喜んでいる。最近、ご馳走とは馬が走りまわって作るとの意味を利用者から教えられたり、入浴介助時に歯が1本しかない利用者から、この1本があるから美味しく食べられると歯の大切さについて教えてもらったことは、全職員で共有している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員が利用者と共に食事したり、おやつ作り等を通じてゆっくり思いや意向を把握している。おやつで甘いものが嫌いな利用者には別の方法を講じたり、外食希望は家族の協力で実現している。帰宅願望の症状がある場合は職員と一緒に外出し、散歩する一方、家族とも検討している。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>2週間に一度定期的にカンファレンスを実施し、計画変更までいかなくても、3人程度の介護計画の見直し・検討をしている。カンファレンスには、医師・看護師・管理栄養士を含め、全職員が参加している。意見が伝えられる利用者からは意見をもらっている。カンファレンスに家族が参加できない場合は家族からコメントや計画確認同意書をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1週間に1度は職員間で業務日誌の内容にそって見直しを行っている。現状維持の利用者のプランの変更まではいかないが、予防的な対応は行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制があり、24時間対応が可能である。家族が通院の介助をできないときは、職員が付き添いをしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院・かかりつけ医として、個人病院の内科と連携をとっている。内科医の往診が定期的であり、24時間対応が可能で利用者が安心できる体制を整えている。また、精神科医とも時々往診してもらえる関係を築いている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針があり、契約時に説明をしている。重度化や終末期の段階時には本人や家族と連絡を持ち、意向に沿った対応ができるよう、介護・看護の連携を強化している。実際に、家族と相談のうえホームで看取りをした事例がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドに配慮して、声かけは意識し、排泄については、利用者が恥ずかしいと意識する前に終わるよう、すばやく対応している。個人のファイルは、事務所のロッカーに収納されており、24時間職員がほとんど滞在している。個人情報に関する基本方針は事務所に掲示している。職員は入職時に守秘義務の誓約書を提出する体制を整えている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外部より習字の先生が来られる等の時は参加の意思を確認している。食事の後は部屋で休んだり、リビングで話したり、テレビをみたり、自由な雰囲気である。食事時間以外は特に決まりはない。外に出る人は玄関の戸に付いているセンサーにより、職員と一緒に付いている。帰宅願望のある人が毎日荷物をまとめているのを止めないで、あとでそっと戻している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
			食事の準備に利用者が割烹着を着けて関わっていたり、献立のメニューを書いたり、配膳運びを自分の役割としている人もある。職員も共に食事し、会話のやりとりの中に笑い声があふれていた。畑で収穫した小松菜がメニューに加えられ、楽しんでいる雰囲気があった。		
	23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
			週3回の入浴を実施しているが、希望者があれば対応している。入浴が嫌いな利用者には時々シャワー・足浴や清拭で対応することもある。入浴時には、見守りや一部介助で安全に配慮しており、また、職員が利用者の思いを聴ける場になることがある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
			居室の掃除はできるだけ見守りでしてもらっているが、共有空間については競争のように張り切っておられる。畑仕事が好きな方からは指示を仰いでいる。また、食事の配膳車を押すことを、自分の仕事としている方もある。利用者の共通して好きなことはカラオケであり、職員も共に参加して歌っている。近くの荒神さんの境内を利用者と一緒に掃除することもある。		
	25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
			雨降り以外は近くの荒神さんに散歩することが日課となっており、掃除も行っている。買い物やドライブ、外食は好まれており、よく外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
			玄関の鍵は夜勤の職員が夕方7時ごろ閉める以外、日中は開けている。利用者が外に出られる時は、ドアのセンサーで職員が確認できるようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に3回消防訓練を実施している。実際に外への誘導や夜間一人で対応する訓練も実施している。自治会の緊急連絡網に加えてもらい、火災協力が得られる仕組みができた。また、非常時に警察に提出できるよう利用者の写真や個人情報などの資料を作成している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分補給について個人記録が記載されている。個人個人の栄養摂取については管理栄養士が管理している。体重が増える傾向があるので、カロリーを減らしたり、嗜好品などについて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室はガラスの戸で開閉しやすく、事業所の周りは建物がないので涼しい風が入り、景色もよく明るい。ホーム内は育てている花や職員の持ち寄りの花を利用者がアレンジして飾っている。リビングに個人ごとの習字が重ねて貼られており、書体で健康状態も分かるし、利用者の話題作りにもなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇やテレビ・家族の写真など色々持ち込まれている利用者もあり、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。		

 は、重点項目。